

I 学校教育目標								
II 前年度に残された課題		III 本年度の重点課題			IV 来年度に残された課題			
①基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成→挨拶など礼儀正しくよくできている。家庭学習の定着を含め基本的な生活習慣の確立について家庭との連携を深め継続的な指導が必要。 ②教育相談体制の確立→教育相談週間が定着した。いじめや不登校の相談に対しては、生徒・保護者が相談しやすい環境においてはまだまだ課題がある。 ③学習意欲や自主的な学習態度の育成及び読書の習慣の向上→生徒が意欲や関心を持って学習や教育活動に取り組めるよう創意工夫した魅力ある授業の展開を図る。読書への興味付けとともに、時間の確保を促す。 ④生徒会活動や係活動等の活動内容の周知→様々な活動、取り組みについての情報提供の工夫を図る。 ⑤開かれた学校づくり→保護者や地域との繋がりについて、取り組みの工夫。		①基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成 ②教育相談体制の確立 ③学習意欲や自主的な学習態度の育成及び読書の習慣の向上。 ④生徒会活動や係活動等の活動内容の周知。 ⑤開かれた学校づくり			①基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成→挨拶など礼儀正しくよくできている。家庭学習の定着を含め基本的な生活習慣の確立について家庭との連携を深め継続的な指導が必要。 ②教育相談体制の確立→教育相談週間が定着した。いじめや不登校の相談に対しては、生徒・保護者が相談しやすい環境においてはまだまだ課題がある。 ③学習意欲や自主的な学習態度の育成及び読書の習慣の向上→生徒が意欲や関心を持って学習や教育活動に取り組めるよう創意工夫した魅力ある授業の展開を図る。読書への興味付けとともに、時間の確保を促す。 ④生徒会活動や係活動等の活動内容の周知→様々な活動、取り組みについての情報提供の工夫を図る。 ⑤開かれた学校づくり→保護者や地域との繋がりについて、取り組みの工夫。			
「1」(重点課題番号) 評価項目	2]具体的達成目標と評価指標	[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表日 5月1日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	中間評価	児童生徒アンケート		保護者アンケート		最終評価(成果と課題)	
		評価日	実施 12月3日	実施 12月21日		評価 12/21 公表 1/10	課題の改善策等 評価 3月4日 公表 3月24日	
		公表日	公表 1月10日	公表 1月10日				
公表方法		<input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他				
評定								
①	○「あいさつ革命スクール南中」→世界一あいさつが飛び交う学校→を合言葉に率先垂範で指導に当たる。自己評価および外部評価で70%以上を目指す。○校長・教頭・生徒指導主事が中心になり毎日、校門であいさつをする。		「生徒が挨拶やきちんとした言葉づかいができるように指導している」4.0ポイントで昨年の結果と比較して変化が無い。「あいさつをしている」「あはまる」は58%であったが、「どちらかといえばあはまる」を加えた数値は95%から97%に増加	「生徒が挨拶やきちんとした言葉づかいができるように指導している」4.1ポイントで昨年より0.1ポイント上回った。	B	「生徒が挨拶やきちんとした言葉づかいができるように指導している」4.6ポイントで昨年より0.1ポイント上回った。 教員は指導をしているつもりでも、生徒や保護者の感じ方にはギャップがある。校門での挨拶や普段からの教師の声かけをさらに増やしていく必要がある。	生徒の様子が良い方向に変わってきている。あいさつもよくしてくれる。挨拶ができない子どもには大人から声かけをする心を開いてくれる。「ほめる」ことを意識して子どもと接したい。	
②	新年度当初に全校集会で生徒に紹介。プリントおよびメールで保護者に周知徹底。市Coと県Coの連携の促進。特に、県Coについては月1回の不登校親の会ピアサポートクラブの主催。別室登校生徒の教室復帰への手立てにつ		該当項目無し	該当項目無し	B	ピアサポートクラブを8回実施。参加者は固定されていた。(3~4名)。3年生不登校生徒5名の内2名は教室に完全復帰。2名は、不登校状態から別室登校に。1名は教育支援室に。5名とも進路が決定。2年生不登校生徒2名は、不登校の状態から週に数回、数時間だけ別室への登校ができるようになってきた。1年生不登校生徒1名は教室へ完全復帰。	保護者との連携を重ねる中で、不登校生徒が徐々にであるが前向きに学校生活に向かうようになってきている。継続して取り組みたい。また、不登校生徒ばかりでなく、特別支援学級生徒をはじめ特別の配慮の必要な生徒の保護者にもピアサポートクラブへの出席の声かけをしたい。	不登校生徒の進路が決まって安心してきている。地道な学校の取り組みの成果であろう。
③	○家庭学習の時間を増やすため「毎日の記録」(1年)を書かせる。家庭時間1時間以上する生徒の割合を70%にする。○全校一斉の朝読を毎週木曜日に実施する。3年生では毎日実施する。毎日読書を30分以上する生徒を30%にする。「まったくしない」を25%以下にする。		「学力をつけるための取り組みに努めている」4.2ポイントで昨年より0.1ポイント上回っている。家庭学習1時間以上の生徒58%から70%と増加し目標達成。読書を30分以上する生徒は21%であったが、全くしない生徒は36%から29%に減少し	「学力をつけるための取り組みに努めている」3.8ポイントで昨年より0.2ポイント上回っている。生徒及び教職員と比べると低い数値になっている。保護者が時間で切るような学力向上の取り組みを進めたい。	B	「学力をつけるための取り組みに努めている」4.2ポイントで、昨年より0.1ポイント上回っている。授業改善等わかる授業の推進に努めたい。	来年度は読書活動の推進を第一優先に、全教師と家庭の協力を得ながら進めていきたい。	読書推進には学校で様々な取り組みをしてもらっている。家庭の問題でもある。朝学習やテストの問題の難易度に批判的な意見を持っておられる人がおられるが、もう一度「自分の子どもの問題」として家庭で話し合ってみる必要がある。「できている生徒」が大半なのだから学校は自信を持って推し進めていただきたい。
④	生徒の主体性を尊重した活動を保証し、自己有用感の割合80%以上に		「学校行事を通して生徒に自主自立の力をつけている。」4.2ポイントで昨年と同じであった。高い数値でありさらに充実させていきたい。自己有用感76%から80%に増加し、目標を達成できた。	「学校行事を通して生徒に自主自立の力をつけている。」4.4ポイントで昨年より0.2ポイント上回った。高い数値でありさらに充実させていきたい。	B	「学校行事を通して生徒に自主自立の力をつけている」4.8ポイントで0.1ポイントで昨年より0.1ポイント上回った。高い数値でありさらに充実させたい。	○行事等がマンネリ化しないように、少しずつ改善を加えながら実施していきたい。 ○「自己有用感」を持たせるため「褒める教育」の実践を教職員全員で進めていきたい。	行事等で先生方が楽しく盛り上げてくれる。行事のたびに生徒と教員が一体となった、「いい学校だな」と思う。
⑤	○学校の活動内容等の情報配信を積極的に行う。(毎週金曜日校長メール・随時ホームページ・月1回学校だより)の工夫。○生徒の地域活動に参加する割合を60%以上に		地域行事に参加する割合は53%から57%に増加した。	「通信やHP、携帯メールなどで家庭に積極的に情報を伝えていく」4.5ポイントで昨年と同じであった。高い数値でありさらに充実させていきたい。	B	「通信やHP、携帯メールなどで家庭に積極的に情報を伝えていく」4.8ポイントで、昨年よりも0.3ポイント上回った。高い数値であり、今後も継続して取り組みたい。	通信、HPや携帯メールの内容のさらなる充実を図る必要がある。	メール配信で確実に通親類が手に入り学校の様子がよくわかる。